

『承認要求を超えて』 (大学礼拝における説教・マタイによる福音書6章1節～4節)

八 木 隆 之

SNSの利用が私たちの承認欲求と関係している、ということは既に広く知られています。日常的にSNSを使っている皆さんがそれを一番よくわかっていることでしょう。みんなに注目されるようなつぶやきをツイッター（今はXというのでしょうか）でつぶやくと、瞬く間にそれが拡散されることになる。きれいでおしゃれな写真をインスタグラムに上げれば、たくさんの「いいね」をもらえるというわけです。近年ではSNSでもそこまであからさまに自慢をするわけにもいかないので、さりげなく間接的に自慢をする手法が発達しているようですね。注意を払う必要があるのは、「いいね」やリツイート、フォローの数などのSNSの仕組みが、そもそも私たちの心理的な要求を満たすことができるように、デザインされているということ、すなわち、私たちが心理的に依存せざるを得ないようにSNSが作られているということです。ある最近の調査によると大学生の半分以上の人達が一日に5時間以上スマホに時間を使っているそうですが、それも驚くに当たらないのかもしれない。

承認欲求とは、人から認められたい、賞賛されたいという人間ならだれしもが持っている生理的な欲求のことです。もともとは心理学の限られた分野でのみ使われる言葉でしたが、今や中高生の会話の中でも使われるほど知られるようになりました。このような欲求があること自体は決して問題ではありません。しかし、問題はその欲求を満たそうとするあまり、SNSに過度に依存することになること、そして、そして自分の嫌な部分を隠す形で、現実とは乖離し

た偽りの自分を作り出して、いいねを集めたり、フォロワーを集めたりするところにあるように思います。ある心理学研究者によるとSNSの「いいね」は本質的に白雪姫に出てくる女王の鏡のようなものと指摘されています。「鏡よ。鏡。世界で一番美しいのはだあれ？」という質問に答えてくれるあれです。SNSで、他人からの承認を得ている自分は、本当の自分とは違うからです。

今日読んだマタイによる福音書6：1では、聖書の時代にも、承認欲求の強い、問題のありそうな人たちがいたことが書かれています。「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい」と主イエスは弟子たちに語りました。この時代の承認要求の強かった人々は、パリサイ派と呼ばれるユダヤ教の人達です。彼らは、人に見せるために人前で善行をするのが特徴です。「あの人は立派な人だ」と言われるために、人に施しをするときには、わざわざ人通りの多い、会堂や通りでしていたわけです。しかし、それはあたかも、施しをするときに自分の前でラッパを吹くようなのだと主イエスはいいます。皮肉たっぷりで強烈ですね。もちろん、この人たちは、イエス・キリストが住んでいた、ユダヤ教の世界における人たちなので、現代のSNSに振り回されている私たちに比べると、時代や文脈は大分違っています。でも人に認められたいという思いのあまり、冷静に見ればおかしい行動をとってしまっているという、本質の部分では共通しています。

それでは、主イエスはここで、弟子たちにどのように生きるべきだと教えているのでしょうか。「あなたが施しをするときには、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。」この言葉は、イエスが求めていることがどれほど高い基準であるかを示しています。確かに人に褒められるためのではなく、匿名で寄付をするなど、人に知られないような方法で施しをすることはそれほど難しいことではないでしょう。しかし、たとえそうであっても良いことをしている自分に対して、「俺って結構いいことをしているな」という自意識を持たずに行動できる人は少ないのではないのでしょうか。初めに触れたよ

うに、私たちは根本的に誰しもが承認欲求を抱えているからです。

しかし、そうした自意識からも解放される鍵があることを主イエスは示しています。それは、「隠れたところで見ておられるあなたの父」と言われている神の存在です。このお方は、たとえ、誰からも気づかれられないような隠されているあなたの小さな施しの行為を、決して見逃すことのないお方です。だれからも評価されないような、あなたの目立たないような長所でさえも、見出してくださいのお方です。たとえ、あなたが自分は人から評価されたことがない、自分はフォロワーの数や友達の数が多くなって「いけて」ない、いいねの数が増えないなどのことで劣等感を感じていたとしても関係はありません。このお方は私たち一人一人を尊い価値ある存在として、誰も気づかなくても隠れたところから見て下さっているからです。ここに承認要求を超えて生きる生き方が示されています。目を一旦スマホから離して、上を向いて歩いてみませんか。